

国連世界防災会議パブリックフォーラム「科学と実践的防災学：防災における大学の役割」を開催しました（2015/3/17）

テーマ：実践的防災学、大学、災害科学
場所：東北大学川内北キャンパスB200

3月14-18日に仙台市で開催された国連世界防災会議のパブリックフォーラムとして、「科学と実践的防災学：防災における大学の役割」を開催しました。このセッションは災害科学国際研究所と環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities - APRU）が主催し、泉貴子特任准教授（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）が企画しました。環太平洋大学協会（APRU）は環太平洋地域の16か国（地域）45大学が加盟する国際大学連合です。環太平洋圏の主要大学間の相互理解を深めることにより、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として、1997年に設立されました。東北大学は2008年に加盟し、災害科学国際研究所はAPRUにおけるマルチ・ハザード分野でのハブ機能を務めています。また、当研究所の今村文彦所長（災害リスク研究部門）とトレメワン事務局長より、APRUと災害科学国際研究所が共同で行ったキャンパスセーフティ（大学における防災力の向上）に関する調査の結果をまとめた報告書や、APRU-IRIDeSマルチ・ハザードの今後の防災への貢献をまとめたステートメントが紹介されました。

セッションの開会式では、災害科学国際研究所の今村所長とAPRUのトレメワン事務局長がそれぞれ挨拶をされました。このセッションは3部構成となっており、それぞれで発表とパネルディスカッションが行われました。

第1部： 実践的防災学とは？

モデレーター：小野裕一（東北大学災害科学国際研究所）
発表：Supot Teachavorasinskun（チュラロンコン大学）
Rowan Douglas（ウィリスリサーチネットワーク）
阿部嘉子（国際航業）
宮本昌彰（パシフィックコンサルタンツ）
Reid Basher（元UNISDR上級アドバイザー）

第2部： 科学はどのように防災に役立つのか？

モデレーター：John Rundle（カリフォルニア大学デービス校）
発表：David Green（NASA）
Gerald Bawden（NASA）
Margaret Glasscoe（Jet Propulsion Laboratory-California Institute of Technology）
遠田晋次（東北大学災害科学国際研究所）
Yih-Chi Tan（国立台湾大学）
Hui Zhang（清華大学）

第3部： 防災における社会科学の役割

モデレーター：ラジブ・ショウ（京都大学）
発表：Hugo Romero（チリ大学）
Manu Gupta（アジア災害対応防災ネットワーク）
Karl Kim（ハワイ大学マノア校）
泉貴子（東北大学災害科学国際研究所）
Badaoui Rouhban（元ユネスコ防災局長）

セッションでは、科学の成果が実際の防災力向上に利用・反映されることが重要であり、そのために、まずはニーズを把握することの重要性や開発する側とその利用者側が対話をもち、連携しながら新たな防災対策のツールを共同開発するなどの試みも必要であるとの活発な議論がなされました。また、企業も今後は様々な形で学術機関と協力し、防災への貢献を模索するなどの提案もなされました。

文責：泉貴子（情報管理・社会連携部門）

（次ページへつづく）



今村所長



トレメワン APRU 事務局長



セッション1パネルディスカッション



セッション2パネルディスカッション



セッション3パネルディスカッション



セッション2パネルディスカッション